

令和2年8月20日

稲作情報 第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

6月21日～8月15日の気象は、平均気温は平年並みで、平年と比べ、降水量は176%と多く、日照時間は89.4%とやや少ない状況でした。「夢つくし」の生育は平年並みで、「元気つくし」以降の品種等は平年並み～やや遅れて生育しています。下表を参考に次のことに留意して農作業を行ってください。

◎品種別出穂期（6月20日頃田植え・平坦地）

※出穂期：ほ場内の5割程度の莖で穂先が出た状態の日

- ★元気つくし・つくしろまん・・・8月21日頃
- ★ヒノヒカリ・・・8月28日頃
- ★ツクシホマレ・・・9月1日頃

1. 水管理

穂ばらみ期～乳熟期は最も水を必要とする時期で、湛水状態とします。乳熟期以降は、根を健全に保つため、落水期（収穫5～7日前）まで間断かん水を行ってください。

2. 病害虫の発生状況と防除

（1）病害

紋枯れ病が早期や早植えの「夢つくし」では多く見られます。これから出穂する「ヒノヒカリ」や「ツクシホマレ」なども発生に注意し、防除を行ってください。

（2）害虫

県はトビイロウンカの警報を発表しています。トビイロウンカは秋になると急激に増殖し、稲を吸汁する害虫です。吸汁害がひどい場合は「坪枯れ」を引き起こします。8月上旬調査の結果、警報が出された昨年よりも発生が多く、今後も増殖に好適な気象状況が続くと予想されています。本年は、地域・ほ場間で発生量に大きな差がみられ、多発ほ場では今後坪枯れが発生する恐れがあります。そのため、できるだけ広範囲にほ場での発生状況を調査し、発生が多いほ場では早急に防除を実施してください。また、現在の発生量が少ないほ場でも、今後増殖する可能性がありますので、十分警戒してください。

発生が多いほ場では、出穂期防除後 7～10 日後に補正防除をおこなって下さい。県が示したトビイロウンカ発生予想パターン図による防除適期は、8月末～9月上旬です。

斑点米カメムシ類の発生も多く認められます。斑点米カメムシ類は米粒に斑点を生じさせ、玄米品質を著しく低下させますので、必ず防除を行ってください。

◎補正防除【穂前期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	スタークル粉剤DL	ウンカ類、カメムシ類	収穫 7 日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤10			1000 倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a

※上記のスタークル剤については、在庫を確保しています。

※スタークル剤については、ミツバチへの影響をおよぼす可能性があるため、必ず開花終了後に散布して下さい。養蜂をされている地域につきましては、キラップ剤（粉剤・フロアブル・粒剤）を使用するようにしてください。

※出穂期防除後、圃場で虫の発生状況を確認し防除をおこなって下さい。

【トビイロウンカ】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳

